

中津川市地域包括支援センター

事業名	認知症みまもりのわSOSネットワークへ「どこシル伝言板」の追加
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要介護認定者のうち認知症で見守りが必要な方（移動に関する運動機能が保たれている方）が年々増加傾向にあり、R3年4月現在65歳以上人口の6.9%を占めている。 ・ 令和元年度、警察による保護件数169件のうち55件（32.5%）が高齢者や認知症の方であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が行方不明になった場合、体調変化の恐れがあり早期の保護が必要。 ・ 認知症の症状がある高齢者を抱える家族は、外出時の事故や行方不明への不安が大きい。
目標 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症になっても安心して暮らせる町 ・ 認知症の方が行方不明になった場合に早期発見・保護ができる。 ・ 誰もが認知症の方の特徴を知り、適切な接し方がわかる。
対象者(重点)	<p>【周知】：市民全般</p> <p>【登録】：認知症の症状があり、自力で歩行し外出時に行方不明となるおそれのある方</p>
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行方不明になるおそれのある認知症の方及びご家族に対して、ケアマネジャー等の支援者を通じて事業の説明を行い、希望者に登録してもらう。 ・ 広報やホームページ、出前講座等を利用して「どこシル伝言板」を多くの市民に知ってもらうことで、行方不明になった高齢者等の早期の保護につなげる。 ・ 発見した時の適切な声掛けやサポート方法を説明することで、認知症の方への適切な接し方を普及する。 <p>【どこシル伝言板とは：高齢者等が行方不明となった場合、見つけた方がスマホで衣服等に貼り付けてある2次元コードを読み取ると、すぐに家族に連絡がいくシステム（参考資料2）】</p>

中津川市瀬戸の里地域包括支援センター

事業名	地域支援、相談支援体制の充実強化
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地縁や近隣との関係が厚く地域での関わり助け合いがある一方、潜在化や複雑化しているケース、高齢化による助け合いの行き詰まり、担い手不足の問題が増えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知、社会参加を通じた健康維持・介護予防・重度化を防止していく必要から、各関係機関の視点と役割を活かした連携、地域住民が主体となる見守り支えあいづくりへの働きかけの必要がある。
目標 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークが広がり、より身近な相談窓口を目指す。 ・地域で共に考え、見守り支え合える地域の構築を目指す。
対象者(重点)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と、高齢者に関わる関係者
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の低下がみられる地区に対して実態把握訪問、予防教室、店舗企業訪問などのアウトリーチを行い、地域との関わりの中で実態調査を行う。 チェックリストを目安に個々の生活課題に向き合い、家庭や地域での役割の継続ができるような視点でアセスメント、ニーズ調査を行う。 ・毎月、第1層・第2層生活支援コーディネーターとの地域連携会議と協働活動を行う。 各々が把握したニーズの共有、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの役割の明確化、地域における必要な社会資源の把握と活性化へ向けた取り組み。 住民への情報提供と啓発、相談窓口の周知活動。 ・アンケートなどから把握したニーズや事業評価の見える化。

中津川市ひだまり苑地域包括支援センター

事業名	実態把握訪問
現状	・前期高齢者の割合が多い地区であり、近年 70 歳代の相談ケースが多くなっている。 (相談内容は病気の悪化や経済的な困窮、孤独死など)
課題	・相談を受けるケースのなかに事前に実態把握ができていない方があり、特に男性独居の方が多かった。
目標 (目指す姿)	・2年間で70歳～74歳の独居高齢者を対象に要援護者の早期発見とニーズ把握を行う。(R2年から開始しR3年は2年目)
対象者(重点)	・70歳から74歳の男性独居に重点をおき訪問
取り組み内容	①訪問により把握できたニーズやケースの傾向をみる。 ②継続して実態把握。 ③健康意識や疾病予防に関する声掛け。

事業名	坂本地域包括ケアシステムネットワーク会議
現状	・各団体における高齢者支援活動は比較的活発に行われているが、お互いの活動内容の把握や連携しての支援が少ない為、地域の中で医療・介護・福祉・予防の連携ができるように地域包括ケアシステムネットワークの立ち上げが必要である。
課題	・初年度(R2年度)より準備会議として各関係機関の代表者からの情報収集や意見交換を行ったが事務局、本会議の立ち上げに至っていない。
目標 (目指す姿)	・坂本地区高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活できるように継続した支援体制を構築していく。
対象者(重点)	・地区の高齢者専門機関や住民組織・民間企業など
取り組み内容	・事務局候補メンバーへの個別説明と準備会議を開催しネットワーク立ち上げについて説明を行い事務局のメンバーを決定をする。 ・事務局会議にて今後の方向性や本会議の在り方など決める。

中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター

事業名	けあまねカフェ事業
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地域の居宅・施設ケアマネジャーとの交流の場として立ち上げた。ケアマネジャーのケアマネジメント能力向上のため定期的な勉強会を軸として行っている。事業の中で、ケアマネジャーとして地域に何か携われる事はないかとの意見もあり、地域作りに対して意欲や関心が出てきているのが現状。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者・家族のためケアマネジメント能力向上は必須 ・ケアマネジャーが地域作りに参画できる環境づくりが課題
目標 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地域のケアマネジャーとともに、介護サービス事業所も巻き込んで、協同で地域作りを行っていただける関係を築く。
対象者(重点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント向上のための勉強会 利用者(在宅・施設)へ還元できることを内容に取り入れる。 ☞テーマ「利用者の筋力・筋肉をつけるに必要な運動・体操」 「介護保険改正のQ&A」 ・担当地域内の介護サービス事業所との連携・交流。 ・“地域課題”から“地域づくり”への取り組み。 ☞地域作りを協同で行っていく為、地域ケア個別会議で課題として出た「認知症と診断されても気軽に集まれる場所がない」の一つの手段として「認知症カフェ」再開に向けての検討会を、今後の新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催を予定している。

中津川市シクラメン地域包括支援センター

事業名	阿木地域包括支援ネットワーク会議(ごちゃまぜ会議)
現状	・各団体が個々での取り組みなどは行っているが、コロナ禍において全体会議が行えず、取り組みの周知や構成団体の気運が薄れている様を感じる。
課題	・阿木地域包括支援ネットワーク会議(ごちゃまぜ会議)を開始し5年経過。その間、新型コロナウイルス感染症を経験するなど、社会状況が変化。個々や地域のニーズ等の変化の把握、対応する必要がある。
目標 (目指す姿)	・中津川市第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の基本目標の具体化、地域に合った取り組みを住民と共に展開する。
対象者(重点)	・地域高齢者
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・阿木地域包括支援ネットワーク会議(ごちゃまぜ会議)事務局会議等でニーズ調査について詳細を詰める(目的、焦点など)。 ・生活支援コーディネーター、区長会、老人クラブ等関係機関と相談、協力を得てアンケート調査を実施。 ・集計、分析をした後、構成団体と解決に向けた取り組みを実施。

中津川市北部地域包括支援センター

事業名	地域のネットワーク作り（強化）
現状	・コロナ禍で地域での集まりや各団体での事業が自粛され、地域との繋がり、関係機関との情報が共有しづらい。
課題	・コロナ禍でも繋がれる方法の検討 ・地域の情報収集・共有 ・ネットワーク作り
目標 （目指す姿）	・「新しい生活様式」を踏まえながら住民同士の繋がりを持てるよう支援するとともに、地域包括支援センターと地域住民や関係機関との関わり方、繋がり方の多様化を図る。
対象者（重点）	・地域住民 関係機関
取り組み内容	・小地域で交流できる通いの場作り。（第2層生活支援コーディネーターとの連携） ・リモート会議の活用。（地域ケア個別会議・介護者のつどいなど） ・書面を活用しながらお互いのつながりを維持する。 ・地域包括ケアネットワーク会議の開催。